

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502462		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌福住【さくらユニット】		
所在地	札幌市豊平区福住3条8丁目16-1		
自己評価作成日	平成 25年 12月 1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの知識向上や技術向上のため、ホーム内研修や外部研修を行っている。 ・資格取得に向けて金額の一部を負担する等のサポート制度を行っている。 ・常に目標を持って仕事を行うため、マイチェンジカードや月の目標、1年間の目標設定を行っている。 ・ホーム内交流も自然と行っており、遅番が出勤したらご入居者の方をお連れして、他階へ遊びに行き、顔なじみの関係性を続けている。 ・季節に応じた装飾を心掛けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=trou&JigyosyoCd=0170502462-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25年 12月 17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街に位置しているホームは、町内会行事への協力、主催するお祭りへ多数の住民参加、保育園との交流、小学校の学芸会見学、散歩時における住民との日常的挨拶交換など地域との交流に積極的に取り組んでいます。多数のグループホームを運営する当法人は、人的資源を大切にしている姿勢が職員の質的レベルアップにつながり、職員の利用者本位のケアサービスに反映されているため、職員が利用者を理解して一人ひとりに寄り添った支援やホーム内の活気と明るさに家族は安心し、利用者が楽しそうに過ごしていることに感謝しています。ホームは、家族会開催・家族アンケート実施・お便り送付・家族も参加した祭りなど種々の機会を通じて家族との連携に努めているため、家族からも利用者の様子が良く分かれると評価されており、家族との一体感が感じられるホームです。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に理念を全員で唱和し実践につなげている。ユニット毎の目標もフロアに掲示している。	利用者に地域との交流と穏やかな生活を提供する法人共通理念をホーム内に掲示し、毎朝唱和しています。さらに、毎年、ホーム独自とユニット毎に目標を設定し、理念と共にこれらの実践に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなど行事を開催したり、近くの保育園と交流をしています。散歩の際など近所の方と挨拶や会話を交わしている。	ホームは、町内会行事に参加協力していますが、ホーム主催のお祭り開催、近隣保育所との交流、小学校学芸会見学、散歩時の挨拶交換などホーム側から積極的に地域に働きかけ、日常的交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	パンフレットや看板等に介護の相談ごとに応じる事を明記している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、サービス向上に活かしている。スタッフも会議の内容が分かるよう議事録も回覧している。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員や民生委員などのメンバーで定期的に開催し、ホーム運営状況報告や意見交換を行っており、職員も議事録回覧で会議内容を理解しています。	会議では外部参加者との意見交換が大切ですが、町内会関係者の参加が少ないため、今後、根気よく参加要請を継続されることを望みます。また、家族の理解と会議への参加を頂くため、全家族へ議事録送付の検討を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開催されている研修等に参加している。	管理者は、市の管理者会議や包括支援センターの地域ケア会議に参加しながら行政関係者と連携を保ち、電話等で各種相談事項や情報交換を行いながら市との協力関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修で身体拘束について学び、身体拘束をしないケアを皆で意見を出し合っている。	身体拘束のないケア関連の法人内研修やホーム内研修を実施しており、外部の研修にも交代で参加しています。関連のマニュアルも整備しており、職員は研修や業務を通じてその内容を理解し、実践につなげています。玄関の施錠は夜間帯のみです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修で虐待について学び、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で研修を行い、制度を学ぶ機会を得ている。又、入居前にご家族様や利用者様に成年後見制度や地域福祉権利擁護事業について話をし必要があれば声掛けてもらえるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、ご家族様、ご利用者様に説明し理解、納得して頂いている。ご利用者、ご家族様に要望、質問、疑問点を出してもらい事業所で出来る事、出来ない事を明確にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では希望でご家族様にもご参加いただき、直接意見をお聞きする機会を設けて、より良いサービスに繋がれるようにしている。	ホーム来訪の家族も多く、その際に利用者の様子を伝えたり要望等を聞いています。さらに、写真入りの「福住便り」送付や家族会開催、家族アンケート実施、祭り等の行事などを通して家族との連携強化に努めています。家族からの要望等は、ホームの会議で協議しながら運営に活かすようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や普段の会話の中から疑問や意見を聞き出来るだけの改善を図っている。また面談等を通じて想いや悩みを聞きだせるようにしている。	ホームでは、職員用の情報紙「福住walker」を発行して情報を共有しています。また、毎月開催のユニット会議で管理者やリーダーと職員の意見交換が行われています。また、職員アンケートも実施しており、これらからの意見や要望を運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与改定に合わせて個別に評価をしている。昇給もあり、功績に応じて賞が送られ、表彰されることがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や講演会なども希望者は参加できるよう配慮されている。また社内でもスキルアップ制度があり参加できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域のグループホームとの交流会や病院の勉強会へ参加を行っている。また期末会などを行い情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご入居者様の要望にそえるように努めている。またいつでもホーム内を見学できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学や面談を行い、要望に答えられるよう努めている。入居後もいつでも相談して頂けるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に十分に話を伺い、一番必要としている援助が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の思いや願いを常に考え希望が叶う様、職員全員で日々話し合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やカンファレンス、お手紙などで近況を報告しご家族様にも協力して頂けるところはお願いし、共に関わりを持つようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもご家族様や知人との面会が出来るようにしている。また馴染みの場所へ行けるよう努めている。	利用者の家族や知人が訪ねてきた際には歓迎して、ホーム内で気軽に過ごせるよう配慮しています。お店での買い物や旧住宅の確認など外出希望が有る時は、家族へ連絡したり職員が付き添うなどで馴染みの人や場との関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食卓の配置に気を配り、孤立しないよう職員が間に入り、橋渡しが出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後のご本人の様子をご家族様より聞かせて頂く事もあり関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の入居者様との関わりよりご本人の希望を汲み取り、ご家族様の意見も聞きながら意向に沿った介助を心掛けている。	利用者のケアプランに記載の基本情報と生活歴や趣味など家族からの情報を参考にし、利用者の言動を記録した介護記録も参照しながら思いや意向把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのご本人の週間なども大切にしながらサービス提供を行っていくように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様1人1人の一般状態や健康状態をしっかり観察し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリング、カンファレンスを通じてスタッフ間で検討しご入居者様の状況に応じてケアプランを作成している。又、ご家族様との意向も反映するようにしている。	利用者の担当職員が中心となってモニタリングやアセスメントを行い、家族も参加する3ヵ月毎のカンファレンスで実情に即したプランの見直しを実施しています。見直ししたケアプランは、ユニット会議や各種記録等で全職員の共有としています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や言動を記録に残し、スタッフ同士で情報共有を行い、ご入居者様の状況把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況の変化にも柔軟に対応できる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの保育園の子供達との交流を行ったり、地域の方と散歩の時に挨拶を交わしたりして、有効な関係作りに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様とご家族様の希望を把握し、かかりつけ医と連携し、意向に沿った医療を受けられるよう支援に努めている。	協力医療機関による隔週毎の訪問診療を行っていますが、従来からのかかりつけ医など希望する医療機関受診には、家族又は職員が付き添い支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝・夕に申し送りをしており、1週間に1度、訪問看護師が往診に来られ、ご入居者様の情報を伝えている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の病院と24時間体制で連携を取っており、入院の際は病院を紹介してもらい、病院との関係作りも行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、終末期についてのお話はしており、ご入居者様の状態を見て、ご家族様の面会時に話し合いを設けている。	重度化と看取りについての指針を作成し、ホーム入居時に説明と同意書を頂いています。利用者の状態変化に応じて再度、家族や医療機関とホームでの看取り又は医療機関への移行等を話し合っており、職員もその方針を共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修を月1回行っており、ご入居者様の急変時の対応を意識つけている。AEDの使用方法も研修、及びスタッフには周知している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っており、日ごろから緊急時の対応が身につくように目に付きやすい所へ掲示している。	3階建ての建物は、外へ出やすい非常口があって災害時に避難しやすい構造です。ホームは、年2回の定期避難訓練以外にチェック表を利用して火災防止点検を毎日実施しています。災害に備えた備蓄品類も用意しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣・排泄の声掛けは他者から出来るだけ見えない、聞えないよう行っており、プライバシーの配慮が出来ている。	職員は、プライバシー保護や利用者への接し方など研修会を通して理解しており、排泄の声かけやケアサービス時に誇りやプライバシーを損ねないよう支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択していただけるよう選択肢を意識した介助や声掛けをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の流れはあるが、一人ひとりの想いを大切に、ご入居者様が行動する時は、ご自身のペースで出来るように支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日必ず整容をしていただき、日中も髭や爪が伸びていないか確認をしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	歩行が自立している方には、配下膳をお願いしたり、一緒に食事の盛り付けなどを楽しみを見出しながら行っている。	栄養士による献立で栄養バランスやカロリーに配慮された食事を利用者は職員と一緒に取りながら和やかに過ごしています。また、誕生日や季節行事の特別メニューと頻繁に実施している外食など変化のある食事提供に努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食にしたり、トロミをつけて食べて頂いたりその方にあった食事形態で提供。声掛けや嗜好の確認をすることで量の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、うがいなど、一人ひとりにあつた方法で行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	決まった時間の誘導ではなく、排泄チャート表を用いながら、個別ケアを行っている。	自立排泄の困難な利用者には、排泄チャート表を利用して声かけ誘導を行っています。利用者によっては、日中はおむつの使用が無く済むように支援しながらトイレ排泄ができるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取時にはオリゴ糖を使ったり、ヨーグルトも定期的に食べて頂いている方もいる。又、体操などを通じてなるべく動いていただけるよう声掛けしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	曜日を決めてほしいというご入居者の方もいるため、曜日を固定しているが、それ以外でもご希望にそえるよう対応している。	入浴方法は、ユニットによって異なりますが、身体の清潔維持のため、週2回以上を目途として実施しています。現在、入浴を拒む利用者は殆ど居ませんが、拒む方がいた場合は無理をせず、日時変更など柔軟に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中であっても眠気が強い方には居室やリビングにて休息して頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容をファイルにまとめ、いつでも確認できるようにしている。又、スタッフ間での薬について理解の供給は出来ている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の体操や外への散歩、お手伝いをさせていただく事により気分転換をして頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望にそえるように日常的に散歩に出掛けたり、1ヶ月に1回は外食などの機会を設けている。ご家族様や知人の方にも協力していただいている。	日常的にホーム周辺や公園に散歩しており、外食も数多く実施しています。さらに、年間外出行事計画をたてて、車両で大型公園、定山溪の足湯、紅葉見学、ファクトリー訪問など各所へ頻繁に出かけているため、家族からも外出機会の多いことに感謝しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつや洋服類などを職員と一緒に選んだり、お支払いもご自身で行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持しているご入居者様もいて、自由に電話をしている。また、電話をしたいという方にはホームの電話を使用して希望にそえるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や各フロアには季節を感じる飾りに囲まれている。また、夏は扇風機、冬は寒さを感じさせない温度に設定し加湿も行っている。	堅牢な3階建てのホームは、利用者の暮らしやすさと職員の働きやすさに配慮された構造です。共有空間のリビングダイニングは明るく、温度管理や衛生管理も行き届いており、季節の飾りや手作り作品などで親しみのある居場所になっています。トイレや浴室なども十分な広さと清掃が行き届いており、利用者は共有空間でゆったりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士が過ごせるように食事の席を常に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に馴染みの物を置いたり、ご本人の好きな人形やぬいぐるみ、昔のアルバム等を置いて居心地の良い空間作りをしている。	居室は十分な広さがあるため明るく、洗面台も設置してあります。利用者は、馴染みの家具や物品を自由に持ち込んで住みやすいように配置し、のんびりと過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、浴室内に手摺りを設置。フットライトを使用したりと安全に生活できるように工夫している。		